

吉成真由美

おしなべて技術者というのは高IQである。こういう種類の人間は、物をつくる際にえてして余分な機能というものを付加させたがる。いろいろつけたほうが便利に違いないと確信し、世の中の人々が自分たち同様、すべての機能をチェックし、マニュアルを通読する人間であると深く誤解している。私はこれで本当に痛い目に遭った。

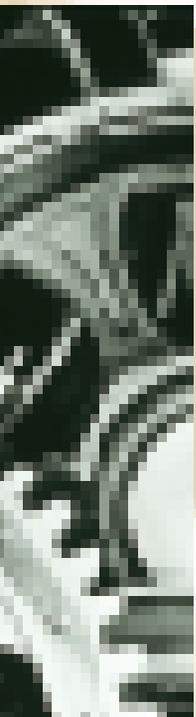
DNA二重らせん発見者の一人、フランシス・クリック博士が、脳科学分野に研究の中心を移してしばらくたったころ、幸いにも単独インタビューをOKしていただいた(およそ15年前)。こんなチャンスは一生に一度かとも思い、当時最新の高性能テープレコーダーとマイクをわざわざ購入し、お好きだというデルフィニウムの花束まで抱えてインタビューに臨んだのである。

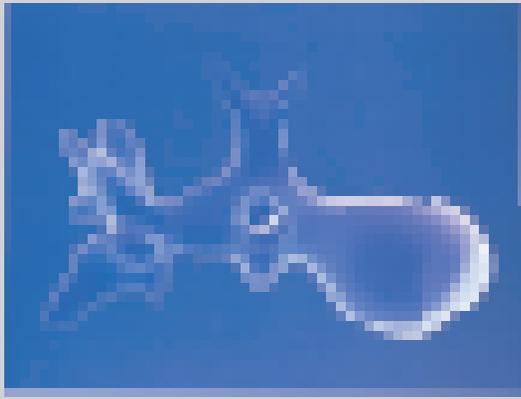
A社のテープレコーダーは、それまでに見たどんな機種よりもはるかに薄くて、スリム並んでいるスイッチも小さく軽く、箱型本体の側面にもいくつかついている。試しに録音してみると、ノイズも少なくスイッチ音も入らず、実にスムーズな出来であった。

いざ本番。ちよつと録音テストし、念のため、イヤホンを片耳に当てて音声レベルを確認しながらインタビューを進める。何しろクリック博士は講演の名手であるから、質問に対する答えも実に歯切れよく明快で、これほど高揚感に浸れるインタビューというものもそうめったにあるものではない。これは原稿にするのが楽しみだと、ワクワクしながら帰路についたのを覚えている。

だからこそ、翌日テープを改めて聴いたときの私は、まさしく全身の血の気が引いて凍りついた。なんとそれは、しばらくノーマルな録音音声が続いた後、キュルキュルキュ

高性能悲話





表紙©藤幡正樹「うみうし」
平版[オフセット4色刷り]
456×399mm 1990年

C o n t e n t s

2 技術に会う 4

高性能悲話 吉成真由美

4 HITACHI FILE talk+

- 1 [talk] 注目の電子ペーパー事業にいち早く乗り出し、
新たな市場を開拓する
鈴木 薫
[+] 電子ペーパーディスプレイ
- 2 [talk] 世界初の42V型フルHDプラズマディスプレイを開発
石垣正治
[+] ディスプレイの原理
- 3 [talk] ALS患者のための意志伝達装置「心語り」
小澤邦昭
[+] アクセシビリティサポート

10 特集 新しい茶の間——日常をつくる情報家電

- 11 テレビと茶の間の未来 北田暁大
- 14 テレビと茶の間のクロニクル1953→2005
- 21 [座談会] テレビとメディア——その進化、新しいカタチ
奥出直人+竹原あき子+吉野正則+池田稔
- 25 [column]
映像の美学を追求する日立のハイビジョンテレビ「Woo」

26 technobscure 4 畠山直哉「Blast」

28 永瀬唯のサイエンス・パースペクティブ 4

指静脈認証システム——生命と暮らしの安全を守る

33 ダントツさんが行く! 3 DVDカメラ

34 日立総研 CLICK ON! research report 4

経済開発と環境保全の両立を可能にするソリューション
林 寛之

よしなり・まゆみ……1953年生まれ。マサチューセッツ工科大学卒業(脳および認知科学学部)。ハーバード大学大学院修士課程修了(心理学部脳科学専攻)。NHKディレクターとして子供番組や教育番組、NHK特集などを担当した。さらに、コンピューターグラフィックスの研究開発にも携わる。現在ボストン在住。著書に「カラフル・ライフ——遅咲きのすすめ」(文化出版局)、『サイエンスとアートの間に』(新書館)、『やわらかな脳のつくり方』(新潮社)、『危険な脳はこうして作られる』(新潮社)などがある。

ルツ……という早送り音に変わり、ふたたびノーマル録音に戻り、しばらくするとまたキュルキュルルツ……。 (ノーマル音……)、キュルキュルルツ、(ノーマル音……)、……という具合で、最後まで定期的にインタビュアーが「猿飛び」状態になっていて、要するに90分余りのインタビュアーの半分以上をキュルキュルルツと失い、修復不可能だったのだ。どうやらテープレコーダーを机に置く際に、側面にあつた高機能(?)スイッチの一つに誤って軽く触れてしまったらしい。あーあ、ガチャッと音のする古女房レコーダーを持参していればこんなことには……。しかし、あれをつくった技術者はいったい何のため「猿飛び」機能なんぞをつけたのか。付属機能が増えれば増えるほど、ノイズ(不用品)のレベルが高くなって、本来欲しい機能に届きにくくなり、道具を使うより道具に使われるようになる。本当なら鉛筆のように1道具に1機能というのがシンプルで最も使いやすい。ちなみにニューヨークで、写真機能つきケータイを耳に当てながら歩いているビジネスマンがよく口にする言葉は、

「おーっといけネー、また自分の耳の写真撮っちゃったヨ」っていうんですと……。

